

伝統文化で社会問題の解決

いやあ、毎日暑いですが、じりじりと照り付ける太陽にセミの声、田んぼに目を向けますとすっかり稲穂が出揃い、夜になるとどこからかお囃子の音が聞こえてきて、匝瑳市らしい夏を迎えたなと感じます。

さて、千葉県内にもたくさんさんの祭りがあります、この度、本市を代表する夏の伝統行事「八重垣神社祇園祭」が、「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』」に選定されました。最近では、イベントやフェスティバルを祭りと呼ぶこともありませんが、昔からの伝統的な祭りや盆踊りには、感謝、祈り、鎮魂などの日本人が大切にしている想いが反映されており、また匝瑳市の祭りに欠かせないお囃子も親から子へ、子から孫へと受け継がれていき、祭り本番を迎えると、笛や太鼓の奏でる音、お神輿の迫力や熱気に子どもたちは大はしゃぎ、新しい記憶とともに脈々と後世へつなげていくことで、伝統文化が発展していくのだと思います。こうして考えてみると、祭りには地域をつなげる力があると感じます。特に子どもたちは、地域の交流を通して成長し、家庭生活だけでは得られない地域社会でのつながりの大切さ、家族以外の大人との関わり、礼儀や感謝、道徳など貴重な経験をすることができ、地域の絆が深まり、そ



こで交流した子どもたちの成長が垣間見えると、祭りが持つ力には、地域力を高めるにとどまらず、今後さまざまなところに影響していくと考えます。このような考え方を持つ地域活性化に取り組むことは、人口が減り続けている社会問題の解決に向けた一つの策になります。今回の文化資産の選定を受け、あらためてそんなことを考えました。ぜひ老若男女、さまざまな世代の方が地域の伝統文化に関わっていただけたらと思います。

今月号でも紹介されておりますが、匝瑳市で初めて病児・病後児保育を行う施設が開設されました。私が掲げる「未来を担う子育て支援」に向けた取り組みと併せ、今後も事業者と連携しながら保護者の負担軽減と生活支援を図ってまいりますのでよろしくお願ひいたします。

それでは皆さま適度な運動を心掛け、栄養バランスの良い食事と睡眠をしっかりとするなど生活リズムを整えて、夏バテしない体づくりで元気に夏を乗り越えましょう。

匝瑳市長 宮内康幸

匝瑳探訪 戦跡めぐり

東小笹を歩く

終戦から78年目の夏を迎えます。6月にあるサークルの「戦跡めぐり」に同行しました。市内では春海に残る旧海軍香取航空基地内の航空機を格納した2基の掩体壕にその名残をとどめます。

香取航空基地は1938（昭和13）年に建設計画が明らかになり、終戦とともに施設が撤去されました。基地跡には同51年に慰霊塔がまつられ、慰霊祭が行われてきました。

続いて巡ったのは、東小笹・慈眼寺境内の慰霊碑でした。碑には、「1945（昭和20）年2月16日早朝、米国



東小笹の慰霊碑

機動部隊が房総沖に出現した際、香取航空基地の新指令部偵察機が索敵飛行中、八日市場上空で米国の艦載機グラマン40数機と遭遇、単機よく交戦したが左エンジンに被弾、東小笹地内に自爆散華したものである」と戦死者の最後の様子が刻まれています。その2人は福島県相馬市出身の陸軍少佐と北海道釧路市出身の陸軍大尉でした。没後29年経た1974（昭和49）年2月16日に遺族による碑の建立があり、東小笹の他の戦没者慰霊塔と並んで立っています。

この年の2月、本州から初めて神風特攻隊が激戦地・硫黄島（東京都小笠原村）へ出撃したとされます。

市内にはもう1基戦没者供養塔が安久山・圓静寺境内で確認されています。1939（昭和14）年11月25日に安久山の畑に墜落死した静岡市と福岡県久留米市出身の2人の陸軍中尉の供養塔です。墜落の様子を目撃した村の人たちに対し強い箝口令が敷かれた、地域の人から聞きました。

供養塔は1941（昭和16）年9月20日に「飯高村銃後奉公会」が立てました。銃後奉公会は同14年に全国一律に市町村単位で各種の軍人援護団体を統一して組織されたとされます。

「戦跡めぐり」の参加者は基地跡の慰霊塔と慈眼寺の供養碑に香を手向け、不戦の誓いを新たにしました。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

問 秘書課 広報広聴班 ☎73・0080

文芸コーナー

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289-2198 匝瑳市八日市場八793番地2
☎73・0080 FAX72・1114

短歌

依知川 雅一 推薦

夏の陽が花壇をおそう梅雨晴れ間

ポンポンダリアの赤にいやされ

大木 洋一

連日の値上げのニュース押し寄すも

譲れないのは朝のコーヒー

林 暁男

梅雨晴れに収穫したるジャガ芋の

肩寄せ合えり籠いっばいに

木下 元

里山にあざみや野ぎく咲きみだれ

鳥のさえずり風運び来る

岩井のぶ子

街中に祭り囃子がパツと咲き

担ぐみこしも大きく揺れて

小川 一夫

朝靄に見えず隠れず餌を食む

若白鷺の成長祈りつ

伊橋 勝利

静脈の浮き出た吾の手日焼けして

愛し哀しみ深く吸う皺

鈴木 和子

川口

城司 推薦

もつれがちの舌に物言ふ夫の目を

見つめてあればいよいよ侘し

稲葉 雪子

境内に植えし神葉青々と

氏子等の成長見守る如し

伊橋 裕子

俳句

椿 和枝 推薦

集落をのむ慟哭の梅雨出水

肩上げを厚く仕立てて初浅間

椎名 晴江

寝落つ児のほぐるる拳合歡の花

山崎智恵子

ねむの花大枝ひろげ小学校

岩井 やす

軽トラの四輪駆動青田波

安藤 建子

里山の竹鳴り響く桜桃忌

那須 恒雄

お揃ひの白のブラウス三姉妹

大川 宣子

川口

城司 推薦

草取りに精だす梅雨の晴れ間かな

雨止むや虫蝶鳥が動きだす

野仲 妙子

川柳

勝又

康之 推薦

ナスの牛キュウリの馬が盆棚に

新盆に友の面影送る夜

佐久間美智子

盆参り浴衣に団扇ホタル狩り

土屋 秀雄

輪の中の幼き私盆踊り

鶴澤 澄子

盆三日祖先敬い感謝する

江波戸京子

盆踊り下手な私は最後尾

中村 九藏

夕涼み先祖と花火愛でる盆

小川 敏榮

川口

城司 推薦

七十路まだ卵でと言いつし

生卵すすって今日は運動会

熱田真こと

何もかもネットで調べわかった気

野仲てつ幹

石田 津

隊員マサの

そうさ発見発信

No.08

地域おこし協力隊員、北條将徳さんがSNSで発信した匝瑳市体験をピックアップしてお知らせします。

今あるモノの再活用

6月17日(土)に八日市場公民館で、市内初の「誰でも貰える食品無料配布」イベントを行いました！ご家庭や企業で消費期限間近となった食品を回収し、来場者に配るフードパントリー活動です。当日は、1歳の娘さんを抱っこした子育て世代や高齢のご夫婦など、幅広い世代の人が来てくださりました。「ゴミにするくらいなら、誰かを助けよう」そんな想いで集まった食品が人の手に渡る瞬間を目にし、新たな助け

合いのカタチに胸が熱くなりました。話は変わり、6月27日(火)に匝瑳市倫理法人会にて登壇機会をいただき、協力隊としての気付きや、ブックカフェ構想をお話ししました。メッセージは「匝瑳市、もったいない」。私は空き店舗や空き家の整理をする中で、受け継がれてきたモノの魅力に気付きました。古道具や空き家などの「一点モノ」から、食品や衣類などの日用品に至るまで、市内には未活用の物的資源がたくさんあります。こうした「今あるモノ」の再活用で市内外の



古材や古道具を回収しブックカフェで再活用

注目を集めながら、匝瑳市の持つ、命あふれる自然環境やお祭りなどの歴史、人情味ある人などをPRする。そうして、わくわくするような新たなつながりが生まれていく。そうなったら、面白い気がしませんか？